滝田医院　院内報

滝田医院ニュース

022－0001　岩手県大船渡市末崎町字細浦77番地　滝田医院
電話0192(29)3108　内科・循環器科・消化器科・呼吸器科・リハビリテーション科
日本内科学会認定内科専門医　・　日本循環器学会認定循環器専門医

第10号　　発行日　2005(平成17)年12月15日

インフルエンザ予防注射をめぐる誤解

目次:

インフルエンザについて　1面
感染予防とは？　1面
診察室から　2面
内科専門医　2面
随想　2面

今年も残り少なくなりました。皆様も慌しくお過ごしのことと思います。いろいろなニュースのなかで、「新型インフルエンザ」という言葉を耳にすることも多いでしょう。

新型インフルエンザとは鳥インフルエンザなど新しいインフルエンザウイルスが「変異」して人から人へ感染するようになる状態を指します。現在は鳥インフルエンザは外国で鳥から人への感染がごくわずかに見られているだけです。したがって「新型インフルエンザ」の実体はなく、あくまで、警戒すべき対象と考えられています。

新聞やテレビは大げさに騒ぎすぎて国民の不安感を煽っている様にも見受けられます。これらマスコミの報道の影響で、今シーズンは特にインフルエンザの予防注射を希望する患者さんが増えました。

当院ではすでに予約を締め切っています。実際、卸し問屋さんから品物が入ってこない状況ですので、ご容赦下さい。そもそも、予防注射というものは、実体のあるウイルスに対して製造するものです。今の注射はあくまで従来型のインフルエンザのうち今年流行すると予測されるものに効くものです。つまり実体のない「新型インフルエンザ」には効きません。この辺を誤解されている方が接種済みの患者さんの中にもいらっしゃいますので申し添えておきます。また従来型インフルエンザへの予防注射の効果も100％完全な物ではありません。

したがって、予防注射をすでに受けた方も安心せずに一般的な感染予防を心がけましょう。予防注射できなかった患者さんも悲観的になる必要はありません。

年末年始休診のお知らせ

年末は
12月29日(木曜日)午前中まで診療します。
年始は
1月4日(水曜日)から、通常診療します。
ただし水曜日ですので午前中のみの診療です。

冬のあいだ感染予防どうすればいいの？

上の欄で予防注射をした人もしない人も、一般的な感染予防をしましょうと書きました。では一般的な予防ってどうすればいいのでしょう。

皆さんは病気を治しに病院に来ます。しかし病院には病原菌を持った患者さんがいっぱいです。病原菌は人間の手を介して、鼻や口、耳から体内に入ります。だから予防のためには病院にいる間、自分の頚より上に手を持っていかないことが大事です。人間は無意識のうちに自分の髪の毛を撫でたり頬杖をついたり鼻の頭に手をもっていったりします。これを少なくとも病院にいる間は避けましょう。そして帰宅したら水道水で手洗いとうがいを充分にやりましょう。これは「ユニバーサル・プレコーション(一般的な感染予防法)」として医療従事者の間では熟知されているやり方です。

また、自分の病原菌を他人にうつさない思いやりも必要です。家族の中では充分注意するのですが病院に来るとおざなりになってしまう方が多いように見受けられます。

空気感染する病原菌は特殊な菌に限られているので、待合室に一緒にいるだけで菌をばら撒く心配はありません。しかし咳をしたり、会話したりした時に唾液や痰、鼻水が相手の体内に入ってしまう可能性があります。どうか、多少窮屈でもマスクをする思いやりをもってください。

診察室から

¶　空気清浄機を導入しました。待合室東側の雑誌スペースの脇に設置してあります。多少音が気になるかもしれませんが、各種感染症の流行時期を迎えて、集塵・脱臭効果も含めて期待をしています。従来の冬期間限定導入の加湿器と併せて、快適な待合室空間をご提供できると思います。(右欄外に空気清浄機本体の写真を載せてあります。)

¶　本格的な冬を迎え寒い日が続いています。患者さんも寒さを避けるように何枚も重ね着して来院される方が増えています。暖かくしていらっしゃるのは結構ですが、院内は充分暖かくしているつもりです。診察時に胸部の聴診や、腕で血圧測定されるのはお分かりだと思います。

どうか診察前には、診察を受けやすい程度に薄着となられるようにお願いします。　厚着のままの診察ですと、肌を出すのに時間がかかり充分お話が聞けず、診断に支障をきたすことがあります。また、結果的に時間がかかり、他の患者さんの待ち時間が長くなることになってしまいます。どうかご協力をお願いします。

¶　当院の冬季の暖房は「床暖房」をメインにしています。ほんわりと穏やかに暖かいのが特徴です。(補助としてエアコンも使っています。)
赤々と燃えるストーブの炎を見ないと安心できない方もいらっしゃるかと思いますが、床暖房のよさもご堪能ください。

「内科専門医」資格認定されました。

診療所や病院の看板や広告には外科や内科、耳鼻科、眼科などの科目が表示されています。これを標榜(ひょうぼう)科といいます。医師は、自分が得意だと思っている科を自由に標榜できます。(当院の標榜科はこの新聞の表題下に書いてあるとおりです。)しかし、近年医療が専門化・高度化して、より深い知識と技量が求められるようになってきました。その知識や技量の一つの目安になるのが「専門医」資格です。　当院医師はすでに循環器専門医(日本循環器学会認定)と内科認定医を取得していましたが、このたび12月12日付けで内科専門医(日本内科学会認定)の資格も認定されました。去る9月4日横浜で行われた内科専門医試験に合格した結果です。正直いって、45歳で日常診療の合間にやる、試験勉強はつらかったのですが、何とか合格できました。「内科」を標榜する医師はご存知のとおり大変多いのですが、「内科専門医」は、12月5日現在岩手県に40数名のみで、新幹線沿線に集中しています、三陸沿岸部では貴重なこの資格を生かして、最新の知識と技量を維持し、これまで以上に、患者さんの健康維持と病気の早期発見に尽くしたいと考えています。皆様もお気軽に、わが町の「内科専門医」をご利用下さい。

横浜港の日本丸

ずいそう(最近思うこと)

耐震強度の偽装問題が世間をにぎわしています。まことにけしからん事でマンションの住民の方はお気の毒に思います。かくして、お国や地方自治体が「悪徳業者」の尻拭いよろしく公的資金を投入して、お気の毒な被害者の方々の救済に当たる予定のようです。これはお上のやり方としては当然のように思えますが、「ちょっと待てよ」と立ち止まって考えることも必要なのでは?。

そもそも公的資金とは我々の税金です。本来税金とは弱い立場にある人たちの救済や、恵まれない地方へのインフラストラクチャーの整備にあてられるものではありませんか?それが10年この方、住専から始まって、デパート、メガバンク、そして今回の問題の建設業者へと公的資金イコール我々の血税は投入されていきます。大きな政府でお上が全部面倒を見るというスタンスならそれで結構。しかし、そうではありません、小さい政府を目指します、老人医療費の自己負担分を上げます。三陸道はいつ全通するかわかりません??これが今の為政者のスタンスです。このままでは30年位したら、縄文以来数千年の歴史をもつこの気仙をはじめとした日本の美しい各地方は無人の荒野となりますよ!。

もっとお上に怒りや疑問をもってもいいのではないでしょうか?「右倣え」の社会は決して健全な発展を約束するものではないと思います。